

我が家のアドベント・カレンダーも、折り返し地点を過ぎて、いよいよクリスマスまで、あと1週間となりました。ヒマで何もすることがない毎日、というのもつまらないですが、常に何かに追われて気ぜわしいというのもストレスですね。一週間の始まりに、心を整えていただき、リフレッシュしてクリスマスに向かいましょう。

もう一つの奇跡

今朝の聖書の箇所は、ヨセフの視点から見たクリスマス・ストーリーです。他のクリスマスの物語、例えば前回のザカリアとエリサベトや、あるいはマリアの受胎告知、次週の羊飼いと天使の知らせなどは、ドラマチックで絵画的な場面が印象的です。それに比べると、ヨセフの物語は、地味で、目立ちません。ページェントで、ヨセフは「添え」のように扱われてしまうという理由はこの辺りにもありそうです。

しかしヨセフが体験した奇跡も、決して他に引けをとらない素晴らしいものです。彼が体験したのは、「自分の心が180度変化する」という恵みだったのです。結婚前に妊娠したマリアを、妻として迎えるということは、正しい生き方をしてきたヨセフには、どうしても受け入れられないことでした。にもかかわらず、夢に現れた御使いの「恐れず妻マリアを迎え入れなさい。その子は聖霊によって宿ったのです」という言葉を与えられて、新しい領域に彼は勇気を持って踏み出しました。

この世の中で、誰もが実感する、一番難しいことは、人の心が変わられるということでしょう。「あの人はどうやってもダメだ」という苛立ちや失望と、「この私はどうしても変わらない」という焦りや恐れが、私たちの人生に、暗い影を作ります。それが聖書の語る「罪」です。ヨセフは、正しい人ですが、解決できない問題にもがき苦しみました。その恐れから、彼は解き放たれたのです。何という奇跡でしょう。

民を罪から救う奇跡

み使いは続けてこう言いました。「その子をイエスと名づけなさい。この子は自分の民を罪から救うからです。・・・この名は「神は我々と共におられる」という意味です。」ヨセフの心が救われたように、生まれてくる赤ちゃんは、すべての人を罪から救う者として、神との和解をもたらす器として、生まれてくる、と預言されました。

マリアの受胎告知は、しばしば人々に「あり得ない」と否定されます。ヨセフの心の変化は、誰にでも一度や二度は人生で起こりうることで「当たり前だ」と、逆の意味で否定される奇跡かもしれません。世の中の常識は、いつでも奇跡を、偶然にすり替えてしまおうとする傾向があります。しかし、それでは罪からの救いという奇跡、人の心が変わられるという体験も、偶然のことになってしまいます。ヨセフは静かに主の救いの業を証しています。神のみ旨に従った者の、平安と喜びを漂わせながら。